

令和7年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自分の思いや考えを伝え合うことのできる基礎的な能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを具現化する言語活動の充実に重点を置いた授業改善を図る。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業研究会の参加者が目標をもちながら自身の授業改善に取り組む姿が見られた。

②専科教員の研修において、学習指導要領実施状況調査をはじめとする諸調査の結果を指導に生かそうとする意識の醸成が図られた。

未だ改善が必要な点

①指導力の二極化が見られる。

②経験年数の浅い教員については、自身の英語力やALTとの連携など指導に不安を感じている割合が高い。

2. 要因分析

①県下の指導教諭による授業研修会への参加者が、事前に個人の課題を明確にし、研修終了後に授業改善に取り組む流れのプロジェクトを実施したことが授業改善につながったと考える。

②経験年数等で対象者を絞ることで、より具体的な課題に焦点を当てた研修を行えたことが指導者の意識醸成につながったと考える。

①②上記①の研修参加者については、主体的に授業改善に取り組んだ様子がチェックシートからうかがえたが、指導力に不安を感じている教員が自発的に参加できるような研修の計画が必要であったと考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

宮崎県が推進する「ひなたの学び」を意識した授業改善に向けての研修会の実施

「主体的・対話的で深い学び」をとおして実現される子どもの学びの姿を、分かりやすく示した「ひなたの学び」の実現に向けた授業改善について、研修を行う。

県下の指導教諭と指導主事がチームを組み、外国語活動・外国語科における「ひなたの学び」について整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善の考えに基づく研修を行う。研修は、対面及びオンラインで研修を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながるポイントについての授業動画を作成し、県下の外国語指導に関わる全ての教員が視聴できるようにする。

指導に不安や悩みをもつ教員のサポートを推進

授業づくりに対して不安や悩みをもつ教員を支援する小学校外国語実践加配教員を県内の教育事務所管内（3箇所）に配置し、TTによる授業支援や小学校外国語の指導方法等に関する助言を行う。具体的には、年間70日を上限に、配置校以外で支援を実施したり、Zoom等を用いて質問に答えたりする等、支援を求める教員に寄り添ったサポート体制を構築する。

令和7年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自信をもって英語で自分の思いや考えを伝え合うことのできる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを具現化する言語活動の充実に重点を置いた授業改善を図る。

○ CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合 (R6: 47.0% ⇒ R7: 56.0%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①学習者用デジタル教科書以外のデジタル動画等のコンテンツを活用している学校の割合
(R5: 84.9% ⇒ R6: 95.2%)

②授業中、発話や発音などの録音・録画でICT機器を活用している学校の割合
(R5: 83.3% ⇒ R6: 88.1%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合
(R5: 49.5% ⇒ R6: 47.0%)

②単元を見通した指導（ゴールイメージの明確化）、指導と評価の一体化

2. 要因分析

①②各種研修等において、具体的なICT活用の場面について示したことがポイント増につながったと考えられる。

①具体的な課題を設定し、学習した語彙や表現などを実際に活用する言語活動を充実させた授業が行われていないこと、英語で授業を行うことが徹底されていないことが考えられる。

②単元計画作成や指導と評価の一体化について具体的に学ぶことができる研修の充実が図られていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

宮崎県が推進する「ひなたの学び」を意識した授業改善に向けての研修会の実施

「主体的・対話的で深い学び」をとおして実現される子どもの学びの姿を分かりやすく示した「ひなたの学び」の実現に向けた授業改善について研修を行う。

県下の指導教諭と指導主事がチームを組み、外国語科における「ひなたの学び」について整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善の考え方に基づく授業研修を行う。単元のゴールイメージをもつこと及び、単元計画や評価計画については授業研修会で丁寧に説明をする。その際、生徒が身に付ける能力を明確化し、指導と評価の改善に活用するためのCAN-DOリストについても触れる。研修は、対面及びオンラインで行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながるポイントについての授業動画を作成し、県下の外国語指導に関わる全ての教員が視聴できるようにする。

指導に不安や悩みをもつ教員のサポートを推進

外国語科の授業や指導に悩む教員を支援する中学校英語教育推進加配教員を県内の教育事務所管内（3箇所）に配置する。随時、対面及びオンライン、電話による相談を受ける。

令和7年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

- ◎ 5 領域の言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動の充実とパフォーマンステストによる学習評価の充実
- ◎ 学習到達目標を明確にした「指導と評価の一体化」の充実
- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 42.6%、B1以上 17.9% ⇒ R7 : A2以上 54%、B1以上 24%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ① CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得している生徒の割合が向上している。
A2レベル相当
(R5:31.1%⇒R6:31.5%)
B1レベル相当
(R5:13.6%⇒R6:14.8%)
- ② 英語担当教師の英語力の状況が向上している (CEFR C1 相当以上)。
(R5:25.6%⇒R6:36.0%)

- ① CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得/有すると思われる生徒の割合は、依然、改善が必要である。
(R5:A2以上 47.0%
B1以上 18.2%
⇒R6:A2以上 42.6%
B1以上 17.9%)
- ② スピーキングテストとライティングテストを両方実施している学科の割合について、改善が必要である。
(R5:54.1%⇒R6:41.5%)

2. 要因分析

- ① 本県の学力向上事業である「新時代に対応した高校授業改革推進事業」をとおして、CAN-DOリスト・年間指導計画と単元計画がリンクしている目標に準拠した指導と評価の一体化について研究を行うなど、実践共有を進めたことが要因であると考えられる。
- ② 英語教育実施状況調査分析の「生徒の英語力に影響を与える諸要素」において、教師の英語力と生徒の英語力の相関関係が最も高いことを、研修会等を通して共有し、教師の英語力向上の重要性について確認したことが要因と考えられる。
 - ① 「取得した生徒」に対して「有すると思われる生徒」の割合が極端に減った。CAN-DOリストを活用した生徒の英語力の見取りやパフォーマンステストによる評価について、研修を通じた周知が不十分であったと考えられる。
 - ② 英語コミュニケーション関連科目での実施割合が低いことから、パフォーマンステストを組み込んだ年間指導計画や単元計画が作成されていないもしくは有効活用されていないことが原因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「世界とつながる高校生海外留学支援事業」の実施
グローバル人材の育成を目的とした、海外留学支援事業、グローバルキャンプ（イングリッシュキャンプ）、留学支援フェア、探究学習をフィールドとするグローバル高校生フォーラムを開催予定。事業を通して、英語でのコミュニケーション能力を積極的に活用する場を設けていく。
- ①② 「新たな時代を切り拓く学力向上事業」の実施
本県の学力向上事業「新たな時代を切り拓く学力向上事業」において、「みやざき学力向上実践校」を指定し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実にテーマにした研究を行い、授業公開にて成果共有を実施する予定。外国語科においては、年間指導計画と単元計画をリンクさせ、5 領域の言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動の充実を図るとともに、その成果を見取る妥当性の高い評価についても研究を深めていく。
- ①① ALT (外国語指導助手) 授業力向上のための研修
“Peer Observation”の実施
新規ALTの配置校を指導主事、県PA、先輩ALTで訪問し、授業参観、外国語科との協議を行い、更なる言語活動の充実を推進する。
- ①①② 教育課程研究協議会の充実
「言語活動をとおして育成したコミュニケーション能力を適切に評価するパフォーマンステストの実施」をテーマとし、CAN-DOリスト・年間指導計画と単元計画がリンクしている目標に準拠した指導と評価の一体化の充実を図る。

目標達成状況一覧表

宮崎教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	47	52	42.6	54		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	18.2	22	17.9	24		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	55	54.3	60	52.7	63		66		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	58	54.1	60	41.5	70		80		95		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	65	47.7	85		90		95		100	
		達成状況の把握(%)	82	63.6	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	92	93.9	94	91.6	95		96		97		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	55	53.2	58	45.2	62		66		70		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	49.5	53	47	56		59		62		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	70	74	75		75		80		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	80	66.6	85		90		95		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	90	99.2	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	43.8	45	42.2	50		55		60		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	70	56.2	60		65		70		73		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90	100		100		100		100	
		公表(%)	85	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	90	100		100		100		100	